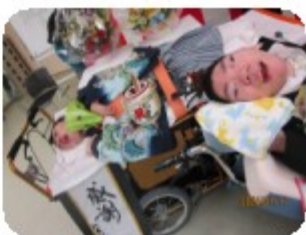


第70号 令和6年4月1日  
発行 東京都立東部療育センター  
広報委員会  
東京都江東区新砂3-3-25



## 二十歳を祝う会

令和5年度の「二十歳を祝う会」が1月17日(水)に行われました。2南と3西に入所の2名の方が二十歳を迎えられました。それぞれの病棟にてアットホームなお祝いを行った後、プレイルームにて合同の式典が行われました。コロナ禍で学校卒業以来会うことができなかったため、久しぶりの同級生との再開となりました。また、ご家族同士の交流の場ともなりました。

お世話になったかもめ分教室の先生方からもあたたかいご祝辞をいただき、学生生活を振り返り和やかに談笑するひと時になりました。

二十歳を迎えられたお二人、本当におめでとうございます。

(3階西病棟 岩崎)

## 乳幼児通所卒園式

3月26日(火)に令和5年度乳幼児通所卒園式を行いました。令和5年度の卒園生は4名です。今回から保護者2名までの付き添いが可能となり、久しぶりにご両親が揃って参加していただける会となりました。

参加者全員で遊んだり歌を歌ったり、スライドショーを使って、これまでのほれほれの思い出を振り返りました。

また在園生代表の贈る言葉や卒園児挨拶では、皆さんが涙し、心温まる感動的な式典となりました。

(通所 木原)



令和6年3月19日、かもめ分教室の卒業証書授与式がプレイルームで行われました。今年度は小学部1名、中学部1名、高等部2名の計4名が卒業しました。コロナ禍のため4年振りになりました。校長先生から名前が呼ばれると、それぞれ目や口、指先を動かして、個々の表現方法で返事をしました。「旅立ちの日に」の曲に合わせて流れたスライドショーでは、今まで取り組んできた授業の様子を見て、成長した姿が伝わってきました。

高等部を卒業した2名は社会人として、進学する2名は学校で、新たな出会いや発見をたのしみにしてほしいと思います。おめでとうございました。

(3階南病棟 太田)

## かもめ分教室 卒業式



## 江東区障害者作品展

2月7日～9日まで江東区文化センターにて「第42回障害者作品展」が開催されました。センターからは、2南の利用者さんが皆で作成したクリスマスリースと、乳幼児通所でひとり1枚作成したデコレーションTシャツを展示いたしました。どちらも力作で、会場にいらしていただいた他の施設の方から「東部さんはいつもすごいですね」「評判ですよ」と言われました。また来年度も頑張って作成し展示するぞ!と強く決意しました。

そして、来年は利用者さんと一緒に見に行けることを祈っています。

(生活支援員)



## 障害児者に対する歯科医療

〈障害者歯科について〉  
歯科医長 石川 健太郎

我が国における障害児者に対する歯科医療は昭和初期から始まり、昭和20年代までは地域の歯科医師個人による活動が主でした。

昭和40年代になり歯科医師会による地域医療活動として全国に広がり、昭和48年に日本心身障害者歯科医療研究会(現公益社団法人日本障害者歯科学会)が発足したことに伴い小児歯科や矯正歯科などと同様に歯科の1分野として発展してきました。以来、歯科分野では障害児者に対する歯科医療を「障害者歯科」と称しており、本巻頭言では障害者歯科という呼称を使用させていただきます。

現在の障害者歯科は日本歯科医師会が提案した「心身障害者歯科医療提供対策」に基づき、都道府県立小児医療センターや大学歯学部附属病院などの三次歯科医療機関を頂点に、口腔保健センター等の二次歯科医療機関、一般歯科診療所などの一次医療機関で構成されたピラミッド型となっています。その中で、当センターは二次歯科医療機関に該当します

【図1】  
当センターでは、18歳未満で発症した疾患に伴う運動・言語・知的機能などの障害のある方を対象に、

歯科医師6名(常勤2名、非常勤4名)、歯科衛生士5名(常勤2名、非常勤3名)の体制で診療にあたっています。常勤歯科医師は障害者歯科指導医/認定医、歯科麻酔認定医、常勤歯科衛生士は障害者歯科認定歯科衛生士、歯科麻酔認定歯科衛生士の資格を有しています。非常勤の歯科医師、歯科衛生士も障害者歯科診療にかかわる専門性を有しています。診療は外来だけでなく、手術室を用いた全身麻酔下での歯科治療にも対応しています。

皆さんは障害者歯科と聞いてどのようなイメージをお持ちでしょうか。歯科治療に対して抵抗する患者さんを複数名でコントロールし、「大丈夫よ」「痛くないよ」「いい子だから少しがんばってね」など声をかけながら治療している風景を思い浮かべるのではないのでしょうか。

障害児者に対する歯科治療を提供する際の問題点として、①コミュニケーション②身体的な問題③医学的管理の3つが挙げられます。具体的には、症状を自分で訴えることができない、口腔機能に障害がある(うがいができない、水をためておけない)、歯科ユニットに自力で移るこ

用による口腔疾患を有するなどが考えられます。

歯科治療の受け入れは「刺激と許容範囲」という考え方で説明されます。つまり、歯科治療による刺激が個人の許容範囲を越えなければ治療は受け入れられるが、刺激が許容範囲を超えてしまうと拒否行動につながってしまうというものです。一般に歯科治療の受け入れには4歳程度の能力が必要とされています。障害児者ではその特性から許容範囲が狭いことが多く、歯科治療時に様々な拒否行動が生じてしまいます。治療中の拒否行動を回避するためには、歯科医療従事者が刺激をできる限り小さくする、または患者自身の許容範囲を広げていくことが求められます。

障害者歯科においては「行動調整法」という手法を用いてそれを実現しています。行動調整法は大きく意識下と無意識下に分けられ、前者では不安軽減法や姿勢調整法、体動のコントロールなどが、後者では薬剤を用いた全身麻酔がその代表となります。

当センターにおいては外来での意識下の治療に加え、手術室での無意識下の治療も行っており、毎月350～400名の患者さんの診療にあたっています。

障害者歯科の今後の課題は「障害者の高齢化」です。内閣府から発表されている障害者白書(令和5年度版)においても65歳以上の障がい者の総数は知的、身体障害ともに年々増加していることが示されています。高齢化した障害者の口腔内の状態や口腔機能の低下の実態は明らかになっていません。

今後、全国的な調査とその結果の公表、それに基づいた対応方法の開発が待たれています。



日本における障害者歯科医療の体制

図1

# 活動紹介

各病棟・通所での日中活動の様子を  
紹介します。



2階西  
病棟

今回は2月の活動風景をご紹介します。グループ活動のムーブメントのテーマは「東部ランドに行こう」です。電車に見立てたガタガタ道を進んで東部ランドに到着すると、うさぎのトーブ君に入場券のチケットを渡します。パラシュートのメリーゴーランドで回転をしたり、フラフープを使って花火を自分で打ち上げたりしました。ガタガタ道に驚いたり、メリーゴーランドに笑ったりと、利用者様それぞれに活動を楽しまれました。  
(2階西病棟 齋藤)

# 2階南病棟

令和4年の12月からプール活動を再開しています。皆さんがプールを楽しめるように順番で企画しています。ひさしぶりのプールに水着を準備する時から笑顔を見せてくれます。まだ外は寒い日が続いています。プール内は水温・室温ともに32度以上で温かくしてプールに入っています。浮き具等を利用してリラックスできるように介助しています。利用者様は浮力によりリラックスし、キラキラした瞳を見せ、利用者様自ら手足の動きが出てくることもあり、職員も嬉しさが倍増します。  
(2階南病棟 平井)



# 3階西病棟



ベッド上で職員のサポートで端坐位ができる利用者様の活動を行いました。マッサージをした後に、向かい合って座りました。視線が変化したことで周囲をよく見ている様子でした。座る姿勢に慣れたころ、職員とクッションボールをスカーフの上に乗せる遊びを行いました。体が揺れることに戸惑うような様子もありましたが、笑顔が見られ楽しそうでした。  
(3階西病棟 藤崎)

# 3階南病棟

春と言えばお花見！毎年皆さんが楽しみにしているお花見散歩に向けて「春をみつけよう！」をテーマにしたムーブメント活動を行いました。

プチプチロード（車椅子で通るとプチプチと音が鳴ります）を走り抜け、病棟廊下に裝飾されたお花畑へ。あれれ？なんだか違う季節の物が混ざっているよ。皆で間違い探しをしながら病棟を一周しました♪コースの終わりに桜をイメージしたゾーンでアロマの香りとともにゆったり過ごしました。本物の春を見つけに行くのがたのしみですね。  
(3階南病棟 清水)



# 通所



今年度3回目のモルックを行い年度末の年間成績の表彰に向けて利用者様、職員ともに気合を入れて臨みました。着々と点数を重ねて笑顔になる方、点数が思うように得られなくて悔しい表情を見せる方、うれしい、悔しいなどの表情をたくさん見せながら楽しんで参加されていました。

# 乳幼児



ぽればれでは、1月に「卒業製作」の活動を行いました。1年間頑張った記念として、「風呂敷染め」を行い、それぞれの好きな色、好きな染め方で染色し、真っ白だった風呂敷が、とても素敵な作品となりました。

## 令和6年度事業方針

東部療育センターは、平成17年の開設以来、「全国重症心身障害児（者）を守る会」が東京都の指定管理者として運営を行っています。今年度も引き続き、守る会の「最も弱いものをひとりももれなく守る」という基本理念のもと、手厚い医療・看護と介護が必要な都内の超（準超）重症児者を積極的に受け入れるとともに、区東部地域の障害児者を支援する中核的施設としての役割を担っていきます。事業の内容と規模はこれまでと同様、病棟は長期入所90床、短期入所24床、医療入院6床、外来は1日100人、通所は成人・乳幼児合わせて1日35人で運営いたします。また、地域療育等支援事業などを実施し、在宅療育の支援や地域の関係機関等との連携・

支援を行います。当センターの利用者の重症度を見ますと、入所者の約80%、短期入所者については約84%、通所登録者の約86%が超（準超）重症児者ですが、全職員が連携・協力し、利用者の年齢や発達に合わせた安全・安心な療育とQOLの向上に努めつつ、短期入所もよりご利用いただくことにより平均90%の病床稼働率を目指します。事業の運営にあたっては次の5点を重点事項として取り組みます。

1. 高度な医療・療育・療養介護とライフステージに応じた多様な取組
2. 地域との連携強化と在宅支援の充実・強化
3. 専門人材の育成と活用
4. いきがいを持って働ける職場づくりと安定的な施設運営
5. 新型コロナウイルス感染症対策

(事務長 松浦)

## 令和5年度福祉サービス

### 第三者評価結果概要

第三者評価とはサービスの内容、組織のマネジメント力等の評価を行い、その結果を公表する福祉サービスのことをいいます。センターは昨年と同様「株式会社日本生活介護」に依頼して行いました。評価方法は、定められた評価基準と手順を基に行われ、場面観察やアンケート結果も反映されています。ご家族の皆様におかれましてはアンケートのご協力をいただき、ありがとうございました。全体の評価講評について報告します。

食事の時間が楽しくなるよう取り組んでいる

【入所】  
●家族が相談しやすい体制を整備し、家族との連携の下で利用者への個性の高い支援を提供している

【通所】  
●多職種で利用者に必要な支援を共有し、チームで協力しながら、きめ細やかな個別支援を実施している

(さらなる改善が望まれる点)

【入所・通所共通】  
●職員のモチベーション向上のため、職員の意向を把握する取り組みの定例的な実施や目標管理の全職員への拡大の検討に期待したい

【入所】  
●看護師を始めとする人員確保が施設の最重要課題となっており、職員採用や定着につながる取り組みを継続的に実施していくことに期待したい

(経営企画係)



# 第16回院内研究報告会

【3月13日(水)開催】

今年度で16回目を迎える院内研究報告会が3月13日行われました。昨年は感染対策としてオンライン視聴を併用して行われましたが今年度は会場視聴のみとし、研修室よりも広いプレイルームでの開催となりました。今年度は研究報告4題、事例報告1題、業務改善1題の計6題のエントリーがありました。

第1部では、療育部職員による研究報告、実態調査を元に行われた発表等がありました。

第2部ではリハビリテーション科による研究報告、診療部からの事例報告、業務改善報告等が発表されました。

1部、2部とどちらも参加者が多く質疑応答などたくさん意見が飛び交い充実した報告会となりました。

審査は抄録、発表資料、発表内容、質疑応答をポイントとして、審査委員により総合的に評価を行いました。



最優秀賞を受賞した田中さんの発表の様子

【最優秀賞】  
「医療入院利用者の看取りを経験して」  
田中彩子さんほか

以下、以下の研究が入賞しましたので、ご報告いたします。

「年々内容が深く、充実した研究報告会になっている」と益山副院長より好評をいただきました。今後ともより磨きをかける皆さまに発信できることを期待しています。  
(庶務係)

【優秀賞】  
「当センターにおける情報共有資料作成の試み」  
リハビリテーション科  
松木友美さんほか

【敢闘賞】  
「重症心身障害児(者)の食事介助における介助者の思い」  
戸田史さんほか



受賞された皆さん  
椎原院長と



今年度の連載は運営に必要なチームを紹介していきます

## チーム紹介

意思決定支援ワーキンググループは、サービソ向上委員会の下部組織として「利用者の意思決定を支援する」ことを目的に活動してきました。また、意思決定の土台となる情報提供の方法も併せて検討しています。

日常的な支援として、利用者が外来部門へ赴く際に、写真やイラストでこれから行く場所について情報提供をする支援も提案してきました。

センター全体の取り組みであるアドバンスケアプランニング(AACP)の整備にも関わってきました。また、選挙で投票するために、どんな立候補者がいるのか、どんな政党があるのかの情報を提供している、投票という意思を表明するための土台となる情報提供を行っています。

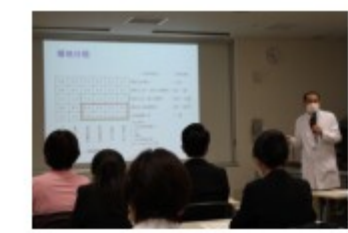
4月からは意思決定支援検討部会として新たに活動を開始しますが、目的はワーキンググループと同様です。生活の中で情報提供し、利用者が意思決定をする機会を増やしていきたいと考えています。また、重症心身障害児者の方々は、文字や簡単な言葉を使って自分の意思を表現できる方もいますが、受け手に分かるように意思を表現することが難しい方が多いため、利用者の意思を捉えたり、理解する力を職員側が磨くことも大切になります。

引き続き、生活に根差した支援方法を検討し実施していきますので、ご協力をお願い致します。  
(事務局心理 西山)

## 辞令交付式

4月1日(月)当センター3階研修室で、新規採用者・昇格者・再雇用者の辞令交付式がありました。新規採用者は理学療法士1名、看護師6名、児童指導員1名、昇格者は3名、再雇用者5名でした。

感じました。また、入所時にはセンター職員に心を救われたと、大変ありがたいお言葉をいただきました。新たな職員を加え、これからそれぞれの部署で役割を果たすべく、力を合わせて運営してまいりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



講話中の椎原院長(写真左)、講演中の色川様(写真右)

## 東部あれこれ

年始から春にかけてのセンターの動きです。

東京の元日は寒いながらも晴天で穏やかに始まりました。しかし、元日の夕方に震度7の能登半島地震が発生し、翌日には羽田空港で日航機と海上保安庁機が衝突炎上する事故が発生するなど、重苦しい年明けとなりました。

当センターでは、17日にプレイルームで「二十歳を祝う会」が開かれ、2名の方の晴れやかな大人への門出を祝いました。おめでとうございます。

16日から25日まで武蔵野大学の看護実習生を受け入れました。5日から6日にかけて東京では8cmの降雪

があり首都高などに影響が出るほどでしたが、15日には春一番が吹きました。

当センターでは、1日から16日まで共立女子大学の保育実習生を受け入れました。

下旬には、複数の入所されている方と職員の新型コロナウイルス感染症陽性が判明したため、短期入所の受入れを一時中止しました。

6日に火災を想定したセンター全体の総合防災訓練を実施しました。1階ラウンジ(旧



消火訓練の様子

## 【編集後記】

新たな職員を迎え、さらにパワーアップしたセンターの活躍にご期待ください。

またホームページにて、今年度の活動計画も後日掲載いたしますのでご覧いただけますと幸いです。

広報委員会  
事務局

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

